



岡本 ひとし

平成二十二年当初予算について

問 事業仕分けや事務事業について何つ。

答 能勢町版骨太二

九で示したとおり、財政再建団体への回避と持続していくための施策の再構築を目的とし、財源の有効配分に努めつつ、再編事務に当たりました。

問 事業審査について何つ。

答 一般・特別会計三

八事業の事務事業評価結果を予算に連動し、経常経費、義務的経費、そして裁量的事務事業、管理運営に分類し、枠配分方式を徹底することで経費の削減に努めた。

問 行政と住民との信頼関係は必要か何つ。

答 信頼がなければならぬと考える。それが基本だと認識している。

問 広域行政の推進について何つ。

答 弊害のリスクよりはメリットに期待する。

問 能勢銀寄票を使用したランチパック・サンド

イッチが店頭販売されているが承知しているか何つ。

答 たしか日経新聞に掲載されていたと思う。

問 能勢の特色をもつとアピールすべきではないか何つ。

答 ミュージアム構想も含め、関係機関を通じてアピールします。

問 優秀な人材の再雇用を推進してはどうか何つ。(民間等の退職者等の再雇用)

答 唯一実行していかなければならぬと考える。積極的に取り組んでいきたい。

問 同和行政・人権行政について何つ。

答 同和問題が解決したという認識はない。引き続き同和問題やあらゆる人権問題の解決にむけ取り組めます。

問 教育長の考えを何つ。

答 能勢の学校の中で大事にしてきた教育の考え

方や思想のようなものはこれから大事にしていく。

問 戸籍等本人通知制度の検討状況を何つ。

答 近隣の市町村の施行状況や大阪府の指導も仰ぎ前向きな検討をしている。

問 行政用語で前向きに検討するということは、実行しないということではないか。

答 前向きに検討するというのは行政ではないということが私も何度も経験しております。

しかし、わたしを信じていただけたら結構です。

問 目標年次を定めて検討しなければならぬと思うが、考えを何つ。

答 二十二年四月に入り要綱の制定の予定ですが、平行し、制度説明や関係機関での審議を予定している。

一般質問



八木 修

問 今年度はこれから10年後の能勢町を見据えた第5時総合計画の策定に取り組むが、町長のビジョンは。

答 持続可能な健全な自治体だ。

問 能勢町単独で考えているが、池田市、箕面市、豊能町と広域も視野に入れているのでは。

答 健全な自治体でなければ広域の話はできないが、あくまで自立することだ。

問 1月に2市2町の首長と橋下知事との懇談がもたれたと聞く。橋下知事は20〜30万人の基礎自治体が運営上効率的だという持論だ。会合でその話は出なかった。

答 2市2町が大阪の地方分権を進める中で協力してくれているお礼の話は出た。

問 第5次総合計画は、委員会に白紙委任するのはないとの見解だが。

答 私(町長)の考えが入らないなら何のため私があるのか。過去は形式的で、委員会冒頭に町長が挨拶して帰って行った。それはおかしいと思っていた。

問 時の為政者が強引に総合計画を立案することを戒めたのだと思うが、能勢町にこういって町にするんだという理念がないからでは。各地で自治体の憲法というべき自治体憲章をつくっている所が出てきた。自治体憲章をつくらせて総合計画の策定にかかれどうか。

答 大変意味があるものだと思う。そのように考えていきたい。

問 せっかく前向きな答弁を頂いたが、学校再編はどうするのか。

答 これまでさまざまな団体から委員を出して協議していただき答申も出ている。

問 町長は誤解している。学校教育検討委員会は「こどもの教育環境のみで、まちづくりのことは諮問されていない」と釘をさされた。また各委員は各

まちづくりのビジョンについて

種団体の推薦を受けて出ているが、個人の資格でお願いしたいともいわれ、その後は意見が少なくなりました。教育委員会に確認する。

答 (教育次長) そのように申しました。

問 自治体憲章や総合計画を策定する前提に学校再編があつてはおかしい。その前に住民の意見を聞くべきだ。

答 住民がどこまで理解されているかわからないが、学校再編は選挙の公約の中に入っていたことだ。住民の意見を聞いていたのでは前に進まない。

問 賛成、反対の選択肢しかない説明会は、説明会ではなく説得だ。

答 時間をかけても理解いただくと説得する。

問 このようなり方はかえって問題をこじらす。府民牧場に決まる前に住民の意見を聞くべきだ。

答 そのような考えはない。